

学校教育目標	「自分をのばし 友達と認め合いながら 地域とともに歩む」				
	1. 「知」 主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育みます。 2. 「徳」 自他を大切にし自分を律する態度と人を思いやる優しさを育みます。 3. 「体」 体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力を育みます。 4. 「公」 地域や社会のために、まわりの人と協働する力を育みます。 5. 「開」 自分を見つめ、多様性を尊重し、共に生きていく力を育みます。				
学校概要	創立 47 周年	学校長 伊藤 巖	副校長 武藤 裕子	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 340 人	主な関係校: 釜利谷中ブロック(釜利谷小、釜利谷南小)、大道中ブロック(大道小、朝比奈小、六浦南小)、六浦小			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	釜利谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自発的・主体的に行動する力	釜利谷中 釜利谷小 釜利谷南小 高舟台小	人とのかかわりを大切に、集団の中で、 お互い認め合い、高め合おうとする子ども ○「人とのかかわり」「生きるための学び」「心と命」を大切にされた指導を、全校の教育活動で具現化するように相互の情報交換を充実させ、意図的な場面設定を図る。 ○児童・生徒の実態を把握して、「育成を目指す資質・能力」、「重点的取組分野」等に関する共通理解の推進を図る。 ○小中連携をさらに推進させて、小中合同授業研究会の開催や児童生徒交流日の充実を図る。 ○地域連携をさらに推進させて、地域行事や地域防災拠点訓練への積極的参加を図る。

中期取組目標	1. 子どもが活用可能な資質・能力を身につけていくことのできる教育活動を推進します。 2. 子どもが自分や友達のよさを認め合い、自尊感情を高めることのできる指導や支援をします。 3. ひと・まち・家庭・自然等とのかかわりを深める活動を推進し、子どものコミュニケーション力を高めます。
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①子どもが獲得した知識を活用できるよう、知識の定着を目指す授業展開を行う。同時に、獲得した知識や技能を次の活動につなげていく年間計画を立てる。②昨年度の重点研究で「自発的・主体的に行動できる子どもの育成」を掲げて取り組んだ。子どもたちの得た経験をさらに生かすために、子どもたちの興味・関心をより高め、授業に意欲的に取り組めるようにする。
担当 重点研究会	
徳 豊かな心	①互いに認め合える温かい学級風土づくりを目指し、YPアセスメントや横浜プログラムの活用を図る。②命の大切さにふれる学習を充実させることで、自分や周りの人を大切にしようとする気持ちを育む。③進んであいさつをすることが日常的にできるような取組を工夫する。
担当 人権・児童指導部	
体 健やかな体	①体育の授業や運動委員会の児童の活動を通して、年間を通して様々な運動に親しむ環境を整え、体力向上を図る。②食育部を中心に、給食目標や給食週間を設定し、好き嫌いをなく食べることの習慣を身に付けたり、食の大切さを考えるための取組を実施する。
担当 体育部・食育部	
公開 地域連携	①学校運営協議会と連携し、地域・社会とつながる学校づくりを進める。②地域の方と関わる機会や方法を工夫していく。地域の方と子どもたちとの交流の機会となるよう「スマイルクリーン作戦」を実施する。③生活科や総合的な学習の時間では子どもの実態や願いを明らかにしながら学習を展開していく。また、地域の「材」について、子どもたちが主体的に関わったり取り組んだりできるように教材研究を進める。
担当 教務部・外部連携	
いじめへの対応	①児童・家庭・地域の実態を把握し、児童が安心して力を発揮できる集団を育てることで、いじめの未然防止に努める。②いじめ防止対策委員会を中心とした全職員による情報共有と、早期対応、確実な事後指導を組織的に行う。③アンケートや教育相談を定期的に行い、児童が相談しやすい環境を整える。
担当 人権・児童指導部	
人材育成・組織運営(働き方)	①年間授業時数の見直しに伴い、週時数も減らしていく。職員の午後の時間の確保により、より一層の授業準備時間が取れるようにする。学年やブロックでの教材研究を計画的に進めるようにする。②校務分掌において、所属していない部署の仕事を見える化することで、少しでも多くの仕事を知ることができるようにする。また、経験年数の少ない職員を巻き込んで仕事をする意識をもてるようにする。
担当 教務部	
コミュニケーション能力	①たてわり活動を通して他学年と関わる経験をすることで、コミュニケーション能力を育てる。②なかよしフェスティバルなど、様々な場面で自分の考えや学習したことを伝える活動を通して、自分の考えを効果的に伝える方法を学ぶ。③子どもたちが自発的に発信したい、相手に伝えたいと思えるように、教師自身が教材開発、展開の工夫、支援の仕方などの授業改善に取り組む。
担当 特活部・総合部	
考えて行動する力	①日々の授業で、見通しをもったり、自分の考えをもったりすることができるような指導・支援を継続する。②児童が必然性をもって考えたり発信したりする姿を目指した授業の工夫をする。③児童が安心して自分の考えや意見を発表したり、行動したりできる環境を工夫する。
担当 研究部	
児童生徒指導	①「こども手帳」の内容を中心に指導事項を共通理解し、一貫性と継続性のある生活指導を行うことで、児童が落ち着いて学校生活を送れるようにする。②YPなどを活用し、児童の自己肯定感を高めるとともに、児童が安心して力を発揮できる集団を育てる。③研修を通して、組織的に児童の課題に適切な指導・支援を行う力を高める。
担当 人権児童指導部	
特別支援教育	①特別支援教育委員会を中心に、支援を要する児童の実態を丁寧に把握し、個に応じた支援の在り方を考える。個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用の仕方についての共通理解を図る。②特別支援教室を有効に活用する。一人ひとりにあった支援や活用方法を学校、家庭、本人と相談しながら決定し、支援と指導を継続的に行う。③コンサルテーションや研修を実施し、教室の中でできる特別支援について高め、実践していく。
担当 特別支援教育委員会	